

新井満・いのちの交響楽 in 盛岡

平成26年9月9日(水) 盛岡市民文化ホール

- 第1部 講演と歌唱「千の風に吹かれながら、啄木を想う」新井満
- 第2部 講演「故郷とは何か」五木寛之
- 第3部 対談と歌唱 五木寛之×新井満
- フィナーレ 合唱「大河の一滴」「千の風になって」
混声合唱団北声会・都南混声合唱団+新井満



「啄木もそうだけど、なぜか日本の文人は故郷と不幸な関係がありますね」

懐かしくもあり、多少煩わしくもあり…「ふるさと」とは何でしょう？ “望郷と流浪の歌人”石川啄木の故郷・岩手県盛岡市で開催されました。

啄木の望郷の想いを 歌いあげた新井さん

もはやスタンダードナンバーともいえる「千の風になって」。作者・新井満さん自身が「大切なあなたをいつも見守っている」という死者の思いを歌います。新井さんには、この歌につながる趣味があったといいます。それは敬愛する先人のお墓参り。『お墓参りは楽しい』という本も上梓されました。「石をもて追はるごとく ふるさとをいでしかなしみ消ゆる時なし」と故郷を詠んだ天才歌人・石川啄木の墓参エピソードも収めました。啄木の大ファンだった新井さんが彼の眠る函館の墓地を訪ねたのは30年以上も前。その墓前に「あなたの短歌に曲をつけて音楽にしたい」と願い出たといいます。歳月は流れ、新井さんの願いは啄木組曲「ふるさとの山に向ひて」として結実。この歌が、自身の歌声で披露されました。

ふるさとの山に 山に向ひて 言ふことなし
ふるさとの 山は あ～ ありがたきかな
やはらかに柳 柳あをめる 北上の
岸辺目に見ゆ う～ 泣けとごとくに
かにかくに 渋民村は 恋し 恋し 恋しかり
おもひでの おもひでの山 おもひでの川
ふるさとの訛 訛なつかし 駐車場の
人ごみの 中に あ～ そを聴きにゆく

さまざまに故郷を歌いながらも生まれ故郷・渋民村へ帰ることなく、短い一生を終えた啄木。新井さんは、この歌でその帰郷を叶えてあげようと、一計を案じます。旧・渋民尋常高等小学校で、代用教員だった啄木が弾いたオルガンの伴奏で、児童40名に合唱してもらったのです。最後に、その清々しい歌声が会場に流れました。この計らいに歓んだ啄木が風になって、嬉々として吹き渡っているようでした。

場所じゃない。心通わす人間のいる ところが、私にとっての故郷(五木)

「啄木の短歌は女々しいと軽んじられた時代があった」と五木さんはいいます。ある文学全集を編集する際、啄木で一冊は出せないという先輩に対し、それは間違いだと、五木さんは強く押し通したそうです。「男性は泣

くな」といわれた時代でした。ところが、柳田国男は「涕泣史談」で、泣くことを歴史的に考察し「昔は男性もよく泣いた。泣くことを抑え込む風潮はなかった」と記しています。それが軍国主義などの台頭で、涙を封じ込める風潮に変化したと五木さんは考えます。また昨今は、プラス思考がもてはやされ、「笑いは免疫力を上げる」と、涙より笑いの方を評価します。しかし生きていれば不幸にも見舞われます。ニュースを見ても、何とも許し難い事件の連続です。嘆かわしいときは、大きなため息をつけばいいし、悲しいときは泣けばいいと五木さんはいいます。「きちんと泣けてこそ、呵々大笑できるのです」と。喜怒哀楽を上手にだすのも心身の健康法だと語りました。

啄木は生まれ故郷に思いを募らせましたが「私にとっての故郷は、いま住んでいるところ。心通わす人間のいるところこそ故郷です」と五木さんは話を結びました。

こころの故郷とは？永遠の故郷とは？

対談では、五木さんが出演したシリーズTV番組『百寺巡礼』の主題歌が披露されました。まず、番組冒頭のメッセージを、五木さんが朗読します。

私たちの心のふるさとは何処にあるのか
それを探しに今日も旅に出ます
百寺巡礼
日本列島の北から南まで
二年間に百の寺を訪ねる旅です
その旅の終わりに何が見えてくるのか
風に吹かれて
今日も寺への道を歩きます。

続いて新井さんが、主題歌「もし翼があったなら」(五木さん作詞)を熱唱。

もし空が飛べたなら もし翼があったなら
飛んで行こう どこまでも 今すぐに
永遠の故郷を 探すため

“生まれた土地”に捉われない“こころの故郷” “永遠の故郷”とは何でしょうか？そして、それは何処にあるのでしょうか？

地元合唱団の歌う、素晴らしい「大河の一滴」(五木さん作詞)「千の風になって」とともに、深い余韻を残しながら、会はおひらきとなりました。



「いま北海道に住んでいるのも、啄木の墓参がきっかけなんです」



若々しい五木さん！
御歳82才



フィナーレは、人生の主題歌「大河の一滴」
「千の風になって」



直木賞と芥川賞、二大作家の競演に
盛大な拍手